

令和7年2月4日

第54号

早稲田大学

武蔵野稲門会報



発行 武蔵野稲門会

〒180-0023
武蔵野市境南町4-10-20

(鈴木康之 気付)
yasuyuki.suzuki.g@gmail.com



「富士と羽田国際線ターミナル」

撮影＝宮崎幸二(1970・政経) 写真同好会

あけましておめでとうございます。武蔵野稲門会 会長 ^{すずき}鈴木 ^{やすゆき}康之(1985・政経)

あけましておめでとうございます。当会は、昨年7月の総会より新しいスタートを始めました。おかげ様で、各同好会の活動も活発となり、ウォーキング会、カラオケ部会復活、忘年会も開催されました。本年は、HPの更新、会報の刷新、会員増強などの課題に取り組んでまいります。何よりも、皆様に武蔵野稲門会員としての充実感をより深めて頂くことを肝に銘じて、幹事一同努めさせて頂きます。2月9日の「向春に語る会」で、お会い出来るのを楽しみにしております。本年も、変わらぬ御厚情をよろしくお願い申し上げます。

武蔵野稲門会 新会員を募集中です

入会希望の方は、ホームページの入会申込フォームへ氏名・現住所・卒業年・卒業学部を記載して、武蔵野稲門会の事務局宛に、送信下さい。年会費3,000円です。追ってご連絡申し上げます。

事務局 田坂忠俊 山中賢一

「令和7年(2025年)武蔵野稲門会 向春に語る会」のお知らせ

記

下記の通り開催いたします。

日時 令和7年(2025年)2月9日(日) 14:00～16:30(受付13:30)

会場 武蔵野スイングホール(JR武蔵境駅北口駅前)11階
レインボーサロン 音楽のアトラクションをお楽しみ下さい。

会費 5,000円(当日、会場でお支払い下さい)

詳細は同封の別紙「向春に語る会のご案内」をご覧ください。

「俳句との出会い」

ほしだ せいふう
星田 正風 (1961・政経)



四国の愛媛（伊予）に生まれたが文化度の高い伊予の国は、古事記に「伊邪那岐、伊邪那美の二神による国生みの条に見え、次に伊予の二名の島を生みき。この島は身一つにして面四つ有り、面毎に名有り、伊予の国は愛比賣と謂う」とある。はからずもこの地に生まれ地元の国民学校に入学したが、3年生の終戦後まもなく地元出身の先生が赴任され、真っ黒に塗られた教科書を無視して明治時代の俳人松山出身の「正岡子規」のお話をされた。

柿食えば鐘が鳴るなり法隆寺

の句は当たり前のことだと十分鑑賞できなかったが、全員の俳句を提出することとなった。小生は

こおろぎや夜もすがら鳴き朝も鳴く

という句を詠んだ。

（その後「ちちろ鳴く 一夜の夢を抱きつつ」と推敲）。

生徒全員の評価があったが何にも覚えていない。このことが五七五の世界一短い文学の世界に入る契機となった。

伊予の国は古来から多くの俳人を輩出している縁もあり、江戸時代後期の俳人小林一茶が信濃の生国を出て関西から九州、四国へ俳句の修行の旅を重ねたおり、伊予の国への旅の途中小生の郷里宇摩入野へ立ちよった。しかしながら乞食同然の薄汚れた姿の為宿泊を断られやむなく歩いて松山の俳人を訪ねた。

帰りには句友の紹介状をもって再来し泊めて貰ったとある。当時の句碑が小生の実家のそばに立っている。

梅の香をはるばる訪ね入野かな
行き戻り訪ね入野の花見かな

自然を愛した一茶らしい句であるが、このような歴史ある作品の存在を知ったのは後年になってからでありもったいないような申し訳ない気がしてならない。

本年米寿を迎えることとなったが、現役時代を含め内外の地を踏む事が多くなり、各先で一句を詠んでいる。時折旅先の投句がその地の句会に入選するのも楽しみの一つである。

一昨年の日経俳壇には、年間最優秀作品に選ばれるという幸運があり、句を詠む勇気が湧いてくる今日この頃である。

武蔵野あに生れし喜び 稲穂会 正風



武蔵野稲穂会の句友（左から）つよし、利雄、秀至、房子、秋雲、宏治（他に、りん太、貢、正風）（敬称略）

お客様の一生の思い出づくりをサポート!

東京 武蔵境 教習所
東京都公安委員会指定

運転免許から各種講習、車の購入までお任せください
ケータイ対応 イコー ム サ シ サカイ

☎ **0120-15-6343**

むさしのFJ司法書士法人

代表 山本 好 (1970年法学部卒)

事務所

〒180-0022 武蔵野市境 2-14-1 スイングビル 603

電話 0422-60-5600

FAX 0422-60-5610

不動産登記 相続遺言 簡易裁判所代理 家庭裁判所申立て

我孫子の街と手賀沼散策(第4回ウォーキング会)

ウォーキング会世話人 ^{ばば まさひこ} 馬場 正彦 (1976・教育)

2024年10月5日、日暮里駅に集合した一行は、我孫子駅に向かいました。曇り日でしたが、散策にはかえって良い日和です。かつて我孫子は、文学者たち、教育家が集まる文化村でした。柳宗悦、志賀直哉、中勘助、杉村楚人冠、滝井孝作、B.リーチ、錚々たる顔ぶれです。今は、旧居跡が点在する静かな街並みです。柔道の創始者、嘉納治五郎の別荘跡に向かいながら、参加者の会話が弾みます。次いで急な石段を登ると、丘の上は志賀直哉旧居跡です。東屋風の書斎が残されていました。ここで一行は、見晴らしの良い風景を楽しみながら、一休みです。

そして手賀沼遊歩道を歩きました。林を抜けると、目の前に湖面が広がります。少し小雨が落ちてきたため、水面に雨滴の小さな波紋が、広がりました。散策を終えて日暮里に戻ります。とんかつ屋に入り、馬場さんの「お疲れ様でした。乾杯！」の発声で、昼食会です。ほどよく疲れた体には、酒が染みるように美味でした。その後、食後の街巡りです。石橋湛山が眠る善性寺を拝観。寺の向いは、正岡子規が通った団子屋です。最後に一同は、子規に倣い、団子とお茶を味わいながら談笑、締めとなりました。(鈴木康之 記)

今回も、皆さんに協力して頂きました。感謝いたします。(馬場正彦 記)



参加者(敬称略)(左から)山中賢一、杉原鐵夫、扇田正俊、谷中竜雄、馬場正彦、佐川素子、徳田直子、秋山紀子、鈴木康之、田坂忠俊、谷岡毅 11名

カラオケ部会の復活です!

^{やまなか けんいち} 山中 賢一 (1975・政経)

コロナ禍により2019年11月を最後にカラオケ部会は休止状態となっていました。先輩諸氏より一日も早く復活することを以前から強く求められていましたが、新たな会場探し、会費の設定等に手こずり、漸く本年9月9日に再開第1回カラオケ会を開催することが出来ました。

会場は吉祥寺駅から歩いて10分程のカラオケスポット「友友」、開催時間も午後1時から3時間とし、旧会員を中心に案内をしたところ、16名の方々にご参加頂きました。皆さんが首を長くして再開を望まれていたことが良く分かりました。予定されていた3時間もあっという間に過ぎ、参加者の皆さんと校歌を声高らかに歌い終え閉会としました。

参加者の方々からは今後も継続して開催をするように強く申し渡され、いささか不安もありましたがその後も10月、11月と開催し、毎回14~16名の参加で大いに盛り上がっています。

旧カラオケ部会に参加されていた方、未だご参加されていない方にも是非ご参加いただきたいと思っています。校友と一緒に歌うことで、年齢・時代を越え楽しみましょう!



第2回 10月7日。(敬称略、前列左から)片岡冬里、眞宅康博、山中賢一、(後列左から)山口光朗、三浦正晴、川島隆慶、馬場正彦、菊池久成、勝沼修二、谷岡毅、諸江昭雄、谷中竜雄、佐川素子、小野沢純一 14名。

お悔やみ申し上げます。

竹下知子さん (1966・教育)	2024年3月
中野哲夫さん (1967・法)	2024年6月
牛込秀三さん (1966・政経)	2024年8月
小松原寛さん (1962・法)	2024年8月

が逝去されました。
謹んで、ご冥福をお祈り申し上げます。

虎ノ門カレッジ法律事務所
弁護士 **福原 弘**
(1969年法学部卒。東京弁護士会所属)

〒105-0001
東京都港区虎ノ門1丁目1番23号 虎ノ門東宝ビル3階
TEL 03(3597)5755 FAX 03(3597)5770

食事とお酒
カヤシマ
佐藤 孝一 (1981年商学部卒)

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町1-10-9
吉祥寺エクセルホテル東急前
Tel 0422-21-6461
<http://www.e-kayashima.com>

吉祥寺の魅力は“ウォーカブル”にあり

たにがしら かずき
谷頭 和希 (2020・文構)

武蔵野市の中心都市である吉祥寺。大東建託が毎年発表する「住みたい街ランキング」では6年連続で首位を獲得している。どうして、ここまでの人気を集めるのか。この理由を探るべく、私も実際高橋編集長案内のもと、吉祥寺を歩いてみた。



都市ジャーナリスト・チェーンストア研究家/チェーンストアやテーマパーク、都市再開発などの「現在の都市」をテーマとした記事・取材等を精力的に行う。「いま」からのアプローチだけでなく、「むかし」も踏まえた都市の考察・批評がある。著書に『ドンキにはなぜペンギンがいるのか』他。現在、東洋経済オンラインや現代ビジネスなど、さまざまなメディア・雑誌にて記事・取材を手掛ける。また、講演やメディア露出も多く、メディア出演に「めざまし8」(フジテレビ)や「Abema Prime」(Abema TV)、「STEP ONE」(J-WAVE)がある。

日曜日だったが駅前の商店街はにぎわっていて、若い人も多い。渋谷がかつてより若い人が少なくなったのと対照的だ。筆者は20代半ばだが、確かに仲間内で「吉祥寺」という名前を聞くことは多い気がする。井の頭公園もすごい人手で、池のスワンボートが渋滞していたのが面白かった。井の頭池のほとりに古民家を改装した個人経営のカフェが立ち並び、いい雰囲気だ。

吉祥寺で感じるのは「歩きやすい」こと。それぞれの施設までずっと歩いて行ける。流行りの言葉でいえば「ウォーカブル」(歩きやすい)だともいえよう。そして、ウォーカブルであることは一般に「住みやすい街」を作るといわれている。

都市ジャーナリストのジェイン・ジェイコブスは住み良い街の定義として「街区が短く、角を曲がる回数が多いこと」を挙げている。吉祥寺を歩いていると、車が通るような大規模な道路は駅から離れたところにあって、細かい路地が駅周辺に密集している。角を曲がる回数が多いのだ。ともすれば迷いそうにもなるが、それが街の魅力を生み出す。

ジェイコブスは他にも「その街区が複数の用途を持つこと」や「年代や状態が混在する建物が残っていること」などを良い街の条件として挙げている。実は、吉祥寺、これらの条件をすべて満たしている。公園で一休みをすること、商店街で買い物をしたり、ご飯を食べること(しかも、ちょっと行けば大型チェーン店もあって便利だ)、武蔵野公会堂でコンサートを見ること……など多様な目的がこの小さな区画で可能。それに私も訪れたように、井の頭公園周辺には古民家をリノベーションしたカフェやお店が軒を連ねていて、古い建物と新しい建物が混在している。また、井の頭公園から駅まで向かうパープル通りにはいかにも「中央線沿線」的な古着屋や個人経営の雑貨店が並んでいて、これらの建物は比較的古い。こうした個人経営の尖ったショップ



井の頭池

★公園通り法律事務所

弁護士 酒井 圭 (2004年 商学部卒)

弁護士 酒井 幸 (1971年 法学部卒)

〒107-0052 (移転しました)

東京都港区赤坂4-9-3 赤坂吉田ビル2階

TEL 03-6804-6083 FAX 03-5411-3808

e-mail info@kouendori.com

HP <http://www.kouendori.com/> アット http://kouendori.jugem.jp/

武蔵野稲門会 名誉会長

早稲田大学春秋会 副会長・幹事長

諸江 昭雄 (1963・法)

〒180-0022 武蔵野市境 5-14-14-S-516

TEL 0422-55-8060

E-mail akimoro1940@gmail.com



井の頭公園入口



夕暮れの東急裏通り



井の頭線ガード下

は若い人の関心も集めやすく、都市の若返りにもバッチリだ。その意味でも古い建物の混在は吉祥寺に活気をもたらしている。

このような吉祥寺の街を作り出したのは、1966—1972年の都市改造計画。ここで、大通りを駅から離れたところに配置し、駅前には商店街が温存された。そのためにウォーカブルな都市が実現され、1980年代あたりから吉祥寺は「若者の街」としてメディアで取り上げられるようになった。こうした街は地価が上昇していくのが常だが、都心部から絶妙に離れた立地のせい、大きな再開発は進まず街の姿は残されていった。

近年、世界的に「ウォーカブルな都市」が注目を集めている。過度な自動車偏重社会に対する反省として、歩行者のための都市をどのように作っていくのかが世界中で議論されているのだ。例えば、アメリカのポートランドでは、高速道路の拡張計画が持ち上がったものの、市民の反対運動によって中止。さらに既存の高速道路も撤去されて公園が作られた。結果、ポートランドは人々の交流が活発になって個性豊かな商店が集積し、「世界で一番住みたい街」になった。

こうした流れを受け、日本でも「ウォーカブルな都市」を作るための議論が持ち上がった。政府は「ウォーカブル推進都市」としていくつかの都市を指定し、歩きやすい都市空間に向けた政策を進めている。

ただ、考えてみてほしい。自動車ではなく公共交通機関が人々の主な交通手段で、歩きでその街を巡ることができる——。これ、日本の昔ながらの駅前商店街のスタイルと非常に似ていないだろうか？そして、日本人からすれば、どこか懐かしささえ覚える、そんな昔ながらの商店街の姿を守ってきたのが吉祥寺だと思う。それが結果的に、流行りの「ウォーカブルな都市」を生み出しているのではないだろうか。

「温故知新」とはよく言われる言葉だが、まさに昔ながらの吉祥寺のスタイルが都市のトレンドの最先端を叶えるものになっているのは興味深いものである。

堀 法律事務所

弁護士 堀 裕一

(1980年法学部卒。第二東京弁護士会所属)

弁護士6名所属。遺言や相続のご相談、ご依頼が増えています。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-1-23 虎ノ門東宝ビル 6F・7F
TEL (代表) 03-6206-1022 FAX 03-3500-1013

家族葬専門葬儀社 のもと祭典

代表 野本 好朗 (2011年文学部卒業)

武蔵野支店 〒180-0006 東京都武蔵野市中町1-25-7-104
TEL 0422-57-7876 (24時間365日受付)
FAX 0422-57-6078

のもと祭典

検索

新会員自己紹介



「どうぞよろしくお願いいたします」

いしかわ とおる
石川 徹 (1972・理工)

武蔵野稲門会の皆様初めまして。遅くなりましたが、入会させて頂きました。吉祥寺南町4丁目で生まれ、小学校入学前に現在の1丁目に越してきました。1972年に理工学部電気工学科を卒業し、就職と共に姫路に行きました。45歳の時に東京へと転勤となりましたが、相模原の社宅に入りました。現在の1丁目の家に戻ってきたのは、約17年前です。

大学の研究室メンバーとは卒業以来毎年年明けに集まっていますが、長年住んでいながら地元の方との交流がほとんどないことに気づき、後期高齢者になった今、武蔵野稲門会に入会させていただくことにいたしました。会員としては若輩者ですが、ご指導いただきますようよろしくお願いいたします。

令和6年武蔵野稲門会忘年会を開催

おだぎり せいじ
小田切 清治 (1978・社会学)

12月3日に開催された武蔵野稲門会の忘年会は、参加者36名の皆様のご協力とご支援のおかげで、大変盛況のうちに終了しました。飲み会となったら、必ず参加される常連の会員の方、久しぶりに出席された会員の方、女性会員の方が多数出席されました。近隣稲門会からも多くの方が参集されました。嬉しいこと尽くしです。正にオールスター忘年会となりました。

会場は日本酒の種類が豊富で、美味しい肴が評判、お洒落で落ち着いた雰囲気のある吉祥寺東急裏の居酒屋さん。会では、まず鈴木会長の開会の挨拶に始まり、佐川常任幹事の乾杯で宴がスタートしました。参加者は香り高い日本酒と料理を楽しみながら、和やかな雰囲気の中で会話が弾みました。会の途中では外れくじなしの抽選会が行われ、参加者全員が景品を手にして、さらに盛り上がりを見せました。

今回、初めて武蔵野稲門会の集まりに参加された宮寿浩さん(1993・商)からは学生時代のこと(漕艇部で活躍)、現在のお仕事(航空会社の機長)の貴重な興味深いお話を頂きました。最後は最長老の谷内相談役の締めの挨拶で無事終了。参加者全員が、心温まる楽しい会となりました。

このように、忘年会は無事に成功を収めました。来年も更なる発展と親睦を深めるため、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

(出席者、敬称略) 秋山紀子、大島正敬、太田資暁、大村武志、小田切清治、小野沢純一、小野寺敏、片岡冬里、勝沼修二、金成政道、川島隆慶、川崎大八、菊池久成、小林正能、斉藤博子、酒井幸、佐川素子、下山登、眞宅康博、末谷芳朗、杉原鐵夫、鈴木康之、千田景三、扇田正俊、高田宜美、田坂忠俊、谷内隆衛、谷岡毅、野本好朗、福原弘、前島俊吉、松本恵美子、宮寿浩、諸江昭雄、谷中竜雄、山中賢一。全36名。



市民が平和を支えるまち・武蔵野

たかはし ともか
高橋 智香 (2020・政経)

2025年、日本は終戦80年を迎える。平成の半ばに生まれた私には、先の大戦の記憶は当然ない。だが、同居する祖父からよく戦争の頃の話聞いていた。昭和11年生まれ、終戦時は小学3年生。帝国海軍に憧れ、愛国少年だったようだ。グラマン戦闘機の破片を拾ったが憲兵に没収されたり、疎開先の長野で親戚の家の砂糖を舐めて勘当されかけたり……平和すぎる時代を生きる私には刺激的なエピソードが多く、自ずと当時の出来事に興味が湧いた。

太平洋戦争末期の1944年11月24日、米軍の爆撃機B29による東京への初空襲が、ここ武蔵野で行われた。現在の武蔵野中央公園周辺には、零戦戦闘機などのエンジンを生産していた中島飛行機の工場があり、度々空襲の被害にあった。工場や民家は損壊し、死者は200名を超えた。今、中央公園は子どもたちが駆け回る美しい緑の平地になっているが、少し奥に入っていくと、米軍による爆撃照準点の詳しい説明板が置かれている。私も訪れたことがあるが、説明を読むと、現在の光景からは全く想像もつかない、当時の凄惨な様子が伝わってくる。



会場でのパネル展示

痛ましい過去を乗り越え、武蔵野市は戦争の記憶を次の世代に伝える平和活動に力を入れている。初空襲のあった11月24日を「平和の日」と制定し、例年戦争に関するパネル展やゲストを招いたトークセッションを実施。憲法記念日付近や夏季にもイベントを開催しているほか、市で戦争を経験された方への聞き取りなども行っている。一連の活動で中心的な役割を果たすのが、市民によって構成される「平和事業実行委員会」だ。私自身も、2年前から公募委員として参加している。委員という聞こえはいいが、実際には長く活動される諸先輩にさまざまなことを教わる日々だ。市が管轄する委員会とはいえ、活動の主体は市民。市井の人によって、この地が経験した過去が語り継がれる様子を目の当たりにすると、背筋が伸びる。

先日、本業で記者をしていることもあり、武蔵野の戦争体験者の方にインタビューする機会を得た。B29来襲時のサイレンの音が耳に残っていて、80年以上たった今でも、鮮明に思い出せるようだ。正直、どんなに話を伺っても、自分にとって遠い時代の出来事であることに変わりはないが、「緑町のあたりで焼け焦げた遺体を見た…」などと、馴染みの土地の名前が出ると、ドキリとする。同時に、土地に紐づいた記憶は時を超えて人に届くものなのだと思う。私自身も、受け取ったバトンを次の世代の人に渡してゆきたい、と切に感じる。(インタビュー動画は、YouTubeで「武蔵野市 平和啓発映像」と検索すると出ます。よろしければご覧ください)



「平和事業実行委員会」(武蔵野公会堂)

同好会の世話人を募集しています

旅行部会 **お花見の会** **ゴルフ部会**

休会中の同好会に関心のある方は、事務局までご連絡頂けますようお願い致します。

田坂忠俊：tasaka-10mon@xrh.biglobe.ne.jp

山中賢一：kip.yamanaka@gmail.com

俳句「稲穂会」(二〇二四年十月十六日)

山粧ひ野に一水の光かな
一幅の絵画
房子(轟 房子)

大銀杏結へぬ出世や九月場所
怒涛の寄り
つよし(市川毅)

山粧ひ湯煙立つや男鹿の宿
地酒で一杯
秋雲(川島隆慶)

来年はもう送れぬと今年米
友
宏治(池田宏治)

紅葉狩山門入りて風の吹く
別世界
利雄(塚川利雄)

温泉にひらり着水楓の葉
秘湯に一人
秀至(中島秀至)

女こそ総理を目指せななかまど
日本にも鉄の女か?
りん太(川崎大八)

山装ふ石槌の雲流れゆく
故郷
正風(星田正)

山粧ふ人も賑わふ空晴れて
秋空
貢(鈴木康之)

川柳「稲穂会」(二〇二四年十二月十日)

兼題(かわる)

変わらぬと信じ選挙で大変わり
森川紀一

「自由句」

壊し屋がひそかに狙う平和賞
市川 毅

中傷の次は恩赦の競い合い
田坂忠俊

此処だけの話に尾緒ついてくる
諸江昭且

俺4番!? 野球じゃなくて風呂の順
片岡冬里

A P E C 着席握手田舎者
太田資暁

ほとほのか少子対策のしも睦まじ
星田正風

新年になれば近づく黄泉の国
小坂 強

明治より勝ってほしいは早慶戦
森川紀一

定年後 覚悟してます 妻バリア
鈴木康之

同好会/世話人

○囲碁(イナゴ)会

毎週金曜 市内コミセン
片岡冬里 090-9640-7202

○ウォーキング会

山中賢一 080-1143-4734

○温泉と景観を楽しむ会

中山美代子 0422-22-8862
徳田直子 0422-43-2773

○カラオケ部会

山中賢一 080-1143-4734

○クラシック音楽同好会

年1回コンサートを開催
山本富士雄 090-5194-3086
小坂 強 080-5373-2955

○ゴルフ(平野杯)部会
(休会)

○三水会

毎月第3水曜日 18時～
諸江昭雄 080-1060-7291
谷内隆衛 080-6814-1868

○シネマ倶楽部

杉原鐵夫 090-2675-9391

○写真同好会

山下倫一 090-2626-2935
宮崎幸二 090-9005-8203

○テニス部会

月2～3回
池田宏治 090-5771-8821
吉井 滋 090-6478-3246

○日本酒同好会

北原 謙 080-5536-4390

○俳句・川柳の会

俳句「稲穂会」: 偶数月第3水曜日
13:30-15:00
本町コミセン(原則)

星田 正 0422-53-5436

川柳「稲穂会」: 4ヶ月毎

太田資暁 0422-20-1705

○マーじゃん部会

偶数月の第2日曜日
松本 誠 090-3204-4355

○もっと早稲田を応援しよう会

箱根駅伝、レガッタ、野球、
ラグビー、など
諸江昭雄 080-1060-7291
川崎大八 090-6305-3275

各同好会の活動については、武蔵野稲門会ホームページをご覧ください。

<http://musashino-toumon.info/information.html>

編集後記

この度、会報誌の編集に参加させていただくことになりました。入会后、すっかり幽霊会員だったのですが、連絡をいただき、初めて鈴木会長と金成会長代行にお会いしたのが、昨年の初夏ごろ。駆け出しの記者・編集者をしています、とお話したところ、あれよあれよと話が進み、大役を仰せつかることになりました。なんとも驚きのスピード感です。若輩の身ではありますが、楽しんでお読みいただけるよう精進しますので、どうぞお手柔らかにお願いします。さておき、2025年の干支は巳(へび)年。脱皮し、強く成長する蛇にちなみ、挑戦や変化に前向きな年とされるようです。今年も、皆様にとって素敵な一年になりますように。(高橋智香)



発行人 = 鈴木康之
編集長 = 高橋智香
編集委員 = 田坂忠俊
金成政道